

ジオデータベースの作成演習

ジオデータベース

空間データを作成するための基本作業

STEP 1 データの準備と座標系の確認

- ・フォルダ 「ファイルジオデータベースの作成」に移動
- ・フォルダ 「data」の中身を確認 → 5つのシェープファイルがある
- ・「flowline」を右クリック→「プロパティ」→「XY 座標系」を確認

名前 (呼び名)	投影法 (Projection)	地理座標系 (Geographic Coordinate System)

STEP 2 ファイルジオデータベースの作成 (図書館の建設と本棚の設置)

- ・必ずしも作る必要はないが、大きいシステムになる場合は作った方がメリットが大きい

イメージ



図書館

ジオデータベース



本棚

データセット



本

フィーチャークラス
(シェープファイル)

- ・フォルダ 「03_ファイルジオデータベースの作成」を右クリック→新規作成→ファイルジオデータベース
- ・名前を「図書館.gdb」とする → **図書館ができた!**
- ・「図書館.gdb」を右クリック→新規作成→フィーチャデータセット
- ・名前を「本棚」とする → **本棚ができた!**
- ・「日本周辺の投影座標系」→「平面直角座標系」→「日本測地系2000(JGD2000)」→「平面直角座標系 第9系(JGD2000)」
- ・「日本周辺の鉛直座標系」→「東京湾平均海面」 → **本棚の位置決めができた!**
- ・完了をクリック

STEP 3 ファイルジオデータベースの作成（本棚へ本を並べる）

- ・ 「本棚」 をクリック→インポート→フィーチャクラス(マルチプル)
- ・ フォルダ 「data」 の中身を全部選んで、入力フィーチャ欄へ追加
- ・ OK をクリック → **自動的に本棚へ本を並べる作業が始まる！**
- ・ 「本棚」 の中身を確認 → フォルダ 「data」 の中身と同じファイル名→**本並べ完了！**

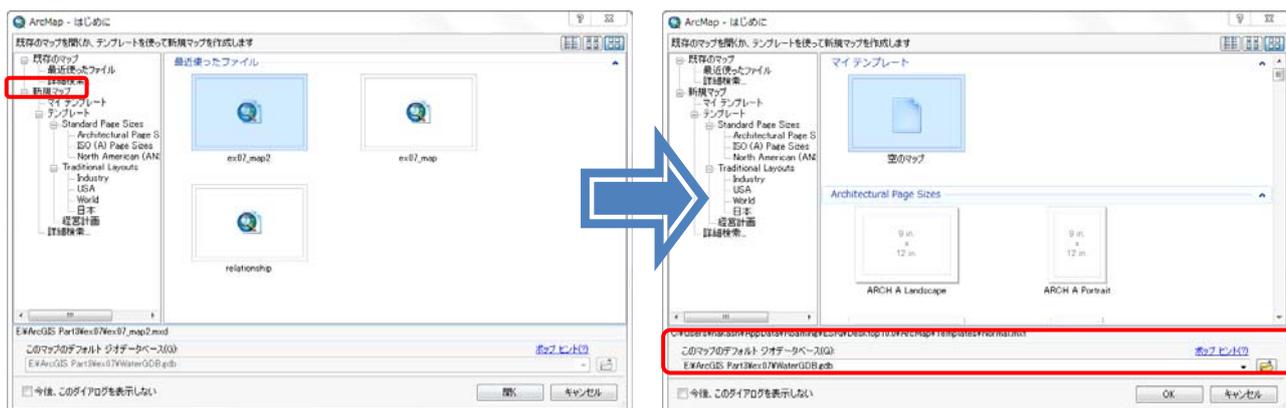
STEP 4 フィーチャクラスへのエイリアス設定（本にわかりやすいラベルをつける）

- ・ 「本棚」 の「flowline」 を右クリック→「プロパティ」→「一般」
- ・ 「エイリアス」 の欄で「flowline」 を「流水線」 に変更
- ・ 同様に、以下を設定

「natural_rive r」	→	「自然河川」
「structure」	→	「河川構造物」
「water_gate」	→	「水門」
「watershed」	→	「集水域」

STEP 5 ArcMap で表示

- ・ 最初に「ArcMap-はじめに」が現れたら、左側で「新規マップ」をクリック
- ・ 「空のマップ」が選択されていることを確認
- ・ 一番下の「このマップのデフォルトジオデータベース」欄で、 をクリックし、「図書館.gdb」を選択



- ・ ArcCatalog で「図書館.gdb」の中の「本棚」を表示
- ・ 「本棚」をArcMap ヘドラッグ&ドロップ
- ・ 地図が表示されれば OK
- ・ 以上、ジオデータベースで作成した地図データが完成し、次の作業が可能になりました